

特集 創立90周年記念式典盛大に挙行される

本校は大正10年の創立以来、幾多の変遷を重ねながらも、輝かしい実績を挙げ、卒業生は2万3千有余人にのぼり、多くの有為な人材を世に送り出してきた。館林・邑楽の中心校としての役割を果たしつつ、卒寿をむかえることとなった。ここに90周年記念事業のあらましを記そう。



館高同窓会報



記念式典挙行

秋真っ盛りの10月22日午後1時、本校第一体育館において、来賓各位を迎えて、同窓会・生徒・PTA・教職員等が参列する中、厳粛かつ盛大に式典が執り行われた。式辞を述べた岡部芳夫校長は、「人にはそれぞれ使命がある。館林高校に学んでそれぞれの使命を自覚し勇気と優しさをもちリーダーに育ってほしい。全ての生徒に『素晴らしい人生を』と期待をのべた。記念事業実行委員長の岩瀬寿市同窓会長は、「つねに自信と誇りをもって夢の実現に向かって一杯生きてほしい」と母校のこれからの歴史をつくるであろう生徒にエールを送った。来賓でO日の松本耕司県議や安楽岡一雄館林市長らが祝辞をよせた。在校生を代表して生徒会長の内山翔君が謝辞をのべ、校歌の斉唱で式典を締め切った。

松沢氏が記念講演

式典に引き続き、キリンビール社長松沢幸一氏(42年卒)による「学習と成長に向けて」と題する記念講演が同会場にて行われた。



スライドを交えながら、これまでの人生経験を語りかけた。社会人になっても40歳までサッカーを続け、留学や転勤も経験したが、「チームで課題を解決する」「一人ひとりと正面から向き合う」とこの大切さを実感。これが氏の行動の根幹になっているという。自身の信条と行動姿勢として自然体・品格ある行動など、好きなリーダーとして秋山好古、新渡戸稲造などを挙げられた。社員一人ひとりがそれぞれ考え行動できる強いサッカーチームのような会社が目標とも語った。

最後に、「これからは環境の変化が激しくいろいろなことが起ってくる。しかし、たしむるではない。しっかりと前を見て自分の夢の実現に勇気をもってチャレンジしてもらいたい。問題にしっかりと向き合っていけば必ず乗り越えられる」と生徒たちを励ました。講演後、生徒たちから質問が寄せられたが、一つずつ丁寧に答えていた。

偉大な先輩から刺激を受けた生徒たちも、氏の志を胸に必ずや大きく成長していくだろう。

祝賀会も晴々しく

会場をジョイハウスに移し、同窓会、PTA、学校関係者による祝賀会が、講演講師の松沢氏をはじめ、教育、地元関係者を来賓に迎えて盛大に開催された。

90年の歴史を振り返りさらなる飛躍を誓い合った。

募金で教育助成

会員諸元にご協力いただいた募金も総額五〇万円を超え、吹奏楽部の楽器、ボート部のボート、サッカー・野球グラウンドの敷木設備などを学校に寄贈した。

ボート部顧問の阿左美先生は「大変ありがたい。今まで40年も前のボートで練習していたが、これからは新艇で練習に励み、来年はインターハイ、国体で上位入賞を果したい」と意気込みを語ってくれた。



新名簿発行

皆様にご協力をいただいた同窓会員の新しい名簿が十年ぶりに発行された。これからの学年同窓会や支部活動、さまざまな同窓会活動に大いに活用されたい。

お晴様で創立九十周年を迎える

同窓会の皆様にはお元気でそれぞれのお立場で活躍をいただいております。心から感謝とお慶び申し上げます。

あいさつ

本年は私達の母校である館林高等学校が創立九十周年を迎え、記念事業として母校に対する教育財団として募金をお願い申し上げましたところ経済状況がきびしい社会情勢のところ各校への取り合いが激しくお慶びをいただき真摯なるご寄付をいただきましたことに対し心からお礼を申し上げます。

創立90周年を迎えて

平成23年4月1日付けをもちまして、館林高等学校の校長として就任しました阿部芳夫でございます。ごきやうを申し上げます。

あいさつ

平成23年4月1日付けをもちまして、館林市内に住んでおります。昭和51年に高校教諭として県教育委員会に採用されて以来、これまで、桐生地域に9年、太田地域に11年、前橋地域に12年と勤務し、館林地域での勤務はこれまで、館林女子高等学校に、わずか3年ばかり、お世話になっただけであります。

て同窓会を同窓会を始め関係者のご協力をいただき記念式典を挙げることに出来た。皆様方から心から感謝申し上げますと共に報告を申し上げます。



同窓会長 岩瀬 邦市

「前に向かって」は在校生には心に残る点であり大いに勇気づけられたと思います。お晴様で同窓会も母校と共に力強い歩みをしていただけたと思います。これも同窓生皆様のご理解とご支援の賜物と存じております。これからも母校の卒業生の新しい場所として交流の基盤として活動を進め10年後に迎える百周年に向けて歴史と伝統のある前



校長 阿部 芳夫

ることができればよかったです。いまだならながら、つくづく思っています。特に、今年は、学校創立90周年を迎える節目でもあります。先日、10月22日の土曜日に、記念式典を行いました。多くの来賓を迎え、厳粛に式典を終了することができて、ほっとしているところでも

あります。また講演会を同時に開催しました。本校卒業生で、現在は、株式会社キリンビールの取締役社長の松沢幸一氏をお招きして、全校生徒に対して有難いお話しをしていただきました。ところで、学校の近況であります。

林高校を支えて新たな歩みをして参りたいと思えます。

私はある九月十日に館林高校主催の第五十九回目を迎えた全国高校法政討論大会をOBとして出席いたしました。私から感動の神話を描いた。これは今の日本の情勢を眺める時に命を大切にしない社会、人と人との関係がうまくない社会、最近では企業でも地域でも人と人との交流がなくなっているのが目撃されております。井筒の中で高校生が自分の言葉としてしっかりと身につけて自信を持ってこれからの人生に向かつて希望と夢を愛々と自分の言葉で并論を展開して行く姿は立派でした。私も大変勇気づけられました。

最後になりましたが私は今年度をもって同窓会長を退かさせていただきますと存じます。本間に長い間ご支援と協力をいただきましたこと心から感謝申し上げます。皆様方のご活躍とご多幸を、引き続き申し上げます。同窓会々々同業13号発行に当たり寄せる言葉とさせていただきます。

OBが学校へ

平成22年度 開校記念講演会



去る十一月十八日(木)に母校体育館にて開校記念講演会が実施された。講師は下関市立大学学長の野野原弘氏。演題は「高校生活の充実で、未来を切り拓こう。」であった。氏は昭和37年に本校を卒業後、38年に東京大学入学、同大学院経済学研究所博士課程修了。

OBによる

職業別進路講演会

さる6月4日(土)「OBによる職業別進路講演会」が開催されました。講師は、現在さまざまな分野で活躍されている4名の先輩と大学や専門学校先生方にお話ししました。生徒からの質問も活発に行われ、それに真剣に答えてくださる講師の先輩の姿を見て、館林高校生とはどうあるべきかという事を教えていただき、現役の生徒達がこのような社会人に成長してほしいと思えました。



【講師の方々△(敬称略)】
中野栄一 ホテルグランドパレス
新井孝行 館林市役所
増尾 伸 群馬銀行
大田佳伸 デル株式会社
他は大学・専門学校講師

学年同窓会など

**82歳同窓会は
人生の真実の
21・22年卒同窓会**

松涛会（昭和21・22年卒業生）は、毎年一回館林市内で同窓の集いを開催しています。毎年館林近郊はもとより関東一円から約30名の参加があります。

平成23年は旧中学入学生70周年そして第2次世界大戦勃発より70周年でもあります。まさに70年前入学したころの思い出が戻り、勤労奉仕や学徒動員中の話題に華がさきます。最後に旧校歌を合唱してお開きになります。



昨年夏下の入学生になった人になつて行く同級生もいます。が健康で元気なうちは続けて行くこと無い、後髪を引かれるような思いで帰宅の途につきません。

最後に同窓生のみならず、このようにお集まり下さい。

館林市朝日町18-35 新里 達
電話0276-741-2995
（松澤十一 22年10月記）

**卒業60年目の節目で
35年卒同窓会**

母校を創立50年、我々35回生も来年は古縁を遡ります。新企画の同窓会になって当学年の参加者も増え、旧交を温める絶好の機会を得ていますが、学年幹事の小林、大塚氏と連携し、それぞれが旅行やゴルフを楽しむ仲間に参加呼びかけたことが要因です。他学年一筋、運動一筋で学校生活を送った者が一掃になり、当時を語り合うことはまことに楽しいものです。

入学した頃はどこの家にもテレビや電話もなく、一家に1〜2台の自転車か唯一の乗り物でした。館林市内からは徒歩通学が当たり前で、市外から通う友達も自転車に飛び乗る二人乗りは誰からも始められませんでした。また、げた履きで「白線一本はだてには巻かぬ……」などと歌って熱気がったり、先生をあだ名で呼んで力づつたものでも。

学校生活はのんきなものでした。先生も頭の悪い生徒に配慮して、一夜づけでも赤点は免れる問題を必ず出してくれ、授業中の閑暇り、好きな種目を自由に選べる体育、水まき教室掃除など大目に見てくれました。そんな中でもしつかりと勉強をしていた同級生もたくさんいました。彼らは道徳観がよく、私のように運動一筋の運動馬鹿にノートを貸したり、要点を教えたりしてくれました。

この時代は食糧難で、食べられるものなら何でも食べるという時代でした。先輩に弁当をせびられたり、時には無断で食べられたこともありました。親しい友と弁当を分け合った事は特に忘れられせん。

3年生になる頃世の中がしだいに安定



してきました。それにとちない校則も厳しくなりました。今まで認められていた自転車の二人乗り、げた履き、加工した字帳の無断禁止などです。

一方、長髪は依然として認められず、あちこちで髪の長さで先生とトラブルが発生しました。今では坊主頭は野球部くらいで髪型は自由になっているから妙な気がします。当時の運動部はレスリング、サッカー、体操が県下に敵なしで、その他のクラブも常に上位を占めていました。

現在の高校総合体育大会は、種目別の勝ち点の合計を競う学校対抗戦ですが、昭和30年代にこの方式が採用されていれば我が校は総合優勝していたと思われま。文化部では松林で大声を発して練習していた井筒部や万葉植物園を管理していた生物部、大成を編纂した新聞部などが思い出されます。

最後になりましたが、私たちのゴルフは古田昭彦氏を代表に「大成35回生ゴルフ愛好会」と称し10年前に結成しました。会員25名で年2回のコンペを行っています。写真は上武ゴルフ場で行った18回大会のもので、19番ホールで全員で「東筑波の雲湧れて……」を歌う時が最高潮になります。

（増山豊臣 22年10月記）

**クラス会を
毎年開催を必ず
34年卒3Aクラス会**

希望と不安を胸に母校を創立して50年余、かつての企業戦士たちも今ではすっかり父親の匂いも好々勤へと変貌するが、今年の8月21日に市内で十数年ぶりのクラス会が開催され同級生が顔を合わせる機会になった。

今は第一線を退いて趣味・遊楽に人生をエンジョイしている者、活躍し過ぎてが病と闘い一休みしながら奮闘している者、専門を極め学会でも華をなしている者、余生は社会のためにとボランティア活動に汗を流している者、それぞれが今は肩、共に送った高校時代に思いを馳せ、次から次へと思いが湧きあがり交った、胸が熱かった初々しい頃の思い出話は、とどまるどころを知らず、時の経つのも忘れ時限り、今後に残すのは、古縁を温めたので毎年おつとことになり毎年開催と相成った。

最後に、皆で校歌（東筑波の雲湧れて……）を合唱し、来年の再会を約し、多岐岐しくも家路についた。

（山田 申 記）



平成一十三年 同窓会本部役員	
参 与	矢口 昇 (二十五年卒) 谷津 義男 (二十八年卒) 松本 精司 (三十八年卒) 安樂岡一雄 (四十一年卒)
副 会 長	阿部 芳夫 (母校校長) 岩瀬 弥市 (二十五年卒) 小嶋 泰男 (二十六年卒) 宇治川福司 (二十七年卒) 山崎 浩志 (二十八年卒) 山川 博 (二十九年卒) 山崎 稔 (三十一年卒) 大塚 幸雄 (三十五年卒) 河本 榮一 (三十六年卒) 小嶋洋次郎 (三十六年卒) 前山 秀樹 (三十七年卒) 小林 廣吉 (三十七年卒) 大岡 允雄 (三十八年卒) 山岸 勝美 (三十八年卒) 遠藤 和昭 (四十二年卒) 高橋 俊雄 (母校自治教員) 栗原 忠 (母校自治教員) 野村 博久 (四十二年卒) 和泉 昇 (母校自治教員) 藤倉 和夫 (四十四年卒) 藤子 昭夫 (母校事務局長) 尾形 哲男 (二十年卒) 橋本 清 (四十七年卒) 奥部 己行 (四十七年卒)
支 部 長	東京同窓会 大隈 清道 (二十九年卒) 板倉 鈴木 攻 (三十七年卒) 明和 小牟 進 (三十七年卒) 千代田 武井 康良 (三十七年卒) 田代町 大塚 孝士 (四十一年卒) 聖徳大聖徳 河内 初光 (三十年卒) 大田 大杉 幸一 (三十八年卒) 足利 小嶋洋次郎 (三十六年卒) 館林 遠藤 和昭 (四十二年卒)

支部活動

東京同窓会

新名簿の発行で ふくらむ希望

会長 大隈 清道

以前から当会最大の悩みは、総会や懇親会の出席者が年々減ってきていることでした。そして、その対策として様々なアイデアが提示されても来ましたが、それらの中から、実現性の高いと思われる「趣味の分科会づくり」を敢り上げ、手はじめにアンケート調査を実施したのでありますが、そこで連絡の発着先がかなり減ってきていることが改めて浮き彫りになったのです。

今や、若い会員を増やすことが待ったなしの急務、にも拘わらず、呼びかける相手はどこにいるのか、その名前さえも分からないまま、時が経ってしまいました。この度発行された新名簿は、そのような状況に投じられた重い一石といえます。これを頼りどころに、会の発展のための更なる努力を願ったと書えます。

おわりに、名簿の編纂に携われた皆様には厚い敬意と謝意を表す次第です。

館林支部

支部活動の 躍進を願う

館林支部長 遠藤 和昭

昨年、支部が設立できましたのは、皆様のご支度、ご協力の

お陰であります。ありがとうございます。

平成二十三年度支部総会は、三月三十日、ニューミヤコホテルに於いて開催することで準備をすすめていきました。ところが大震災が起き、計画停電等いままに休会したことが次々とおき、三月二十日急遽役員会を開き対応を協議しました。そこで、一、総会の中止(準備が予想される)、二、二十二年度の会計、監査報告の了承、三、事業計画等を了承しました。

今年も九月に第二回ゴルフコンペを行いますのでふるってご参加下さい。ところで、昨年九月の第一回ゴルフコンペには33名の参加者の中に平成六年卒の方が2名おり若いエネルギーをもらいました。これからもいろいろな行事を通して若い年代の参加者を増やしていきたいと思えます。

四月の統一地方選挙で松本耕司さん(三十八年卒)が群馬県議会議員に四回目の当選、安楽岡一雄さん(四十二年卒)が館林市長に二回目の当選をされました。ご活躍を期待しております。

大泉支部

祝 創立九十周年 縦横の絆を強め 更に前進を

館泉会会長 河内 初光

九十周年 ご同慶のいたります。

歴史を築いて下さった多くの先輩や関係者の皆さまに心より感謝申し上げます。

この九十年は、さまざまな変化の時代でした。日本は今、大震災や原発の問題などまことに厳しい局面にあります。同窓会活動も時局を踏まえて、次の創立一〇〇周年に向けて協力でよく話し合い、

ご活躍新たにスタートしたいと思います。新同窓会名簿による、大泉在住者名簿を作成しました。これを基に地区会員の増員を討りたいと思えます。よろしくお力添えの程、お願い申し上げます。

当会の活動は、新年総会・親睦会、名簿や会報の発行、ゴルフやグラウンドゴルフ、合同役員会・納涼祭などですが、時代の変化に伴い、更に検討したいと思えます。

本部関係では総会・親睦会、ゴルフ大会などへの参加、また各支部関係では、各支部総会・懇親会に参加させて頂いております。

校章 ボラリス(北極星)の如く、母校同窓が永遠に光り輝くことを祈ります。

太田支部

母校の沿革を知る

太田支部長 大杉 幸一

多くの卒業生が存在するが、支部活動としては総会兼懇親会、本部総会と懇親ゴルフ大会に参加する程度にとどまっております。平成二十三年度で支部総会も二十二回となりました。

今年には母校館林高校が創立九十周年を迎えることなので、同窓会の歴史を若葉同窓会長に三三三講演と称して講話を設定しました。会長も在校生時代に反り青春の一瞬を回想されました。資料として「母校の沿革概要」を中澤事務長にご協力いただきました。

さらに、情報校長からは文武両道・質実剛健で二十一世紀を担う生徒の活躍と進路状況等学校の近況を聞き、母校の創立から今までの歴史と現状を知る有意義な懇親会となりました。

明和支部

同窓会と母校の クロスカッピング

明和支部長 小牟 進

平成二十二年清明和支部総会を十一月二十一日に、31名の参加者により盛大に行いました。

本年は日本人のノーベル賞受賞に因んで、総会に賞品のタイトルを付けました。すでにご承知のようにクロスカッピングとはバラリウムを触媒として、炭素の有効結合を断るものです。この技術は日本が世界をリードする技術です。まさに日本のお家芸の一つです。

同窓会と母校を結び付け、活力あるものにする触媒の重要な一つが同窓会の活動ではないかと考えています。

今回は総会の行事の中に少し変化を持たせ、私の関係している日本手作りカメラ会の、平成二十一年七月に発売されたの取材により放送された、録画のDVDを、パワーポイントにより、総会の会場にて披露を試みてみました。(写真は読売テレビのものです。)

邑楽町支部

発足して八年目、 先輩たちのご尽力に感謝

邑楽町支部会長 大塚 孝士

早いもので邑楽町支部も発足して八年目に入りました。支部の先輩たちが築いてくれた今日のゴルフ大会(年2回実施)、グラウンドゴルフ大会(年2回実施)、酒肴、将棋大会等、邑楽町支部らしい特長としての事業活動も会員に定着し、和気あいあいの中でスムーズに運営され親睦と交友の一大イベントと位置付けられています。

また、支部の顔である会報も毎年度末に発行し会員の情報を知る手掛かりとして、主要活動の基本において編集委員会を立ち上げ、5ヶ月間の長期に渡って丁寧に作成しています。

これからも現状を維持しつつも会員の動向を的確に把握しながら新事業も視野に入れてより充実した支部活動を進めたいと思えますので、本部をはじめ、それぞれの支部よりご指導ご助言いただけると願っています。

板倉支部

楽しく和やかな 懇親会に出席を!

板倉支部長 鈴木 攻

これ程甚大な被害を及ぼすとは事々思わなかったこの度の東日本大震災。その時、三脚に乗って地上約三メートルの百日紅の約定をしていた私は数秒間揺れに気づかずいたため、地面に三脚ごと振り落とされてしまった。立ち上がったもののすぐに四つん這いに、恐怖を感じました。被災された方々に心からお見舞い申し上げます。



断想

山口 澄夫 先生



昭和四十六年、校内巡視中の私は、「教諭のハコブ」と、壁上の生徒から罵声を浴びました。...

よつと想ったので、おどろきました。嬉しいなりました。「自分さえよければ」という、...

大賀運と私

和田 春雄 先生



毎年七月になると古代運の開花が新聞やテレビで報道される。七日前、数年ぶりに館林の大賀運を觀賞しようとしてフェンス越しに見たが見当たらな...

初年七月になると古代運の開花が新聞やテレビで報道される。七日前、数年ぶりに館林の大賀運を觀賞しようとしてフェンス越しに見たが見当たらな...

場 登 師 恩

館高は私の母校

根岸 弘 先生



創立六十周年を迎えんとする前年に赴任した。母校での勤めに心躍らせ、伝統校として進学実績を挙げること、...

さてには、同窓会事務局長として、記念式典や記念事業のための

寄付集めに駆け回り、同窓のいろいろなたつたの出会い、人生の目覚めの一つになっている。私の人生訓「人の出会いは人生の力」は、そのとき考えたもので、以来私を支えてきた。

「あつと言う間の十年間」

小瀧 信一 先生



寄付集めに駆け回り、同窓のいろいろなたつたの出会い、人生の目覚めの一つになっている。私の人生訓「人の出会いは人生の力」は、そのとき考えたもので、以来私を支えてきた。

さてには、同窓会事務局長として、記念式典や記念事業のための

同窓。しかも、博士から記念に大賀運の樹が贈られた。他校に例を見ない教育に対する遠大な構想に感服した。

同窓。しかも、博士から記念に大賀運の樹が贈られた。他校に例を見ない教育に対する遠大な構想に感服した。...

さて、当支部の総会、懇談会は大勢の御来賓参加のもと二月十一日に催されました。前回の会報にも記させていただきましたが、新しく参加者を一人でも多くと願って呼びかけを行っておりますが、少しづつその効果が表れてきました。今年も三名の方が新たに加わり、楽しくコミュニケーションを図ることができました。これからも会員拡大に向けて地道な努力をしていきたいと思っております。

千代田支部

千代田支部の歴史について

千代田支部長 武井 章良

平成二十三年度の支部総会は東日本大震災の影響での計画停電等のために急ぎよ中止させて頂きました。関係各位には大変ご迷惑をおかけしたことを心よりお詫言ひ申し上げます。

「利根川の砂地走」や「足利織物神社の石段登り」「多々良松林クロスカントリー」へと私のボンコン車に脚輪を押し結ぶのもちろん競技会においても、その結果に一喜一憂もしました。そして他校連は、何皮となく私を関東大会へ、全国インターハイへと連れて行ってくれました。今思っても、とても充実した二日二日であり、一週間であり、一年の支れであり、あつと言う間の十年間でした。

さて、今年母校館林高校が創立九〇周年を迎えることとなりおめでとございいます。そこで、千代田支部の歴史について簡単に述べてみたいと思ひます。平成元年に山川博氏（赤岩）が本部同窓会の副会長に就任されたことを機に、平成二年に同窓生の方々に呼びかけ、館林高校同窓会千代田支部として発足しました。初代支部長は橋本自郎氏（赤岩）が引き受け、同窓の皆さんの協力もあり順調に進んでまいりました。



館高Now

猛暑の中の熱戦

球技大会行われる

去る七月十二日・十三日の二日間に行われた「球技大会」が行われました。サッカー、ソフトボール、バスケット、卓球の四種目にわかれ、各クラスが優勝杯である「館高杯」を目指して熱戦を繰り広げました。

開会式では、この日のために作製したクラスTシャツを身にまとった生徒達が体育館に集合し、伝統の「やるぞ宣言」で気合を入れ、球技大会は幕を開けました。

初日の最高気温は三十七度という日本一の気温の中、その暑さに負けない館高生達の気迫あふれるプレーが見られ



ました。また、日頃は教壇に立っている先生方も職員チームとして参加して生徒と同じフィールドで試合をし、会場を大いに盛り上げました。

二日目の後半、各種目で決勝戦が行われる直前に生徒会によるアナウンスが全校に流れると該当クラスのみならず他のクラスの生徒も会場にかけつけ、応援、試合とも大変な盛り上がりでした。

順位発表の場面では、順位が発表される度に各クラスから歓声があがりました。その中、みごと総合優勝に輝いたのは、サッカー、バスケット、卓球の三種目で優勝し圧倒的な強さをみせたのは三年五組でした。日本一の暑さの中で行ったこの二日間の熱い球技大会は生徒にとって、この夏の貴重な思い出となったはずです。

● 定時制だより

四月八日の入学式にて、阿部芳夫校長より生徒二十三名の入学が許可されました。同時に在籍する生徒たち六十九名のひとり一人の新学期がはじまりました。

五月二十三日には、本校視聴覚室で開校記念講演会(創立六十三

周年)が行われました。先の東日本大震災について、館林地区消防組合消防本部の柳沢功一通信指令室長をおまねきし、「群馬県緊急消防援助隊として派遣された九日間」と題して、講演をいただきました。

震災から三日後には救援のため被災地の一つ、福島県相馬市へ。そこで巨大津波による予想を超えた被害の深刻さを、ご自身の体験を通じて、私たちも知ることとなりました。被災地での救援活動の様子はお待ちいただいた動画ビデオや写真、実際に使用した防護服などを



通じて、震災の恐怖と悲惨さを理解することができました。生徒たちの感想の中には、「地震と津波の恐ろしさを実感できた。」(一年生)、「各県の緊急消防援助隊の存在を初めて知った。」(二年生)。「震災復興へ向け、私たちにできる支援とは何か。日本が抱える今後の課題など、自分自身の生き方をも考えさせる貴重な記念講演会となりました。」(上毛新聞六月五日にも紹介)

進路状況

今年度の進路決定状況は、四年制大学が189名、短大が1名、大学校が3名、専門学校が9名、就職者が1名という結果でした。また、進学努力継続者は24名でした。

合格者が多かった大学としては、日本大学に22名、東洋大学に19名、埼玉工業大学に17名、群馬大学に15名、城西大学に13名、立正大学に12名などとなっています。難関大学としては、筑波大学や千葉大学などの国立大学に、早稲田大学、明治大学、青山学院大学、中央大学、法政大学、東京理科大学などの私立大学に合格しています。

昨年度と比較すると、大学合格者数は、国公立大学で26名、私立大学で80名減少しています。主な理由としては、AO入試や推薦入試を利用して受験した生徒が増加し、受験大学数が少なかったことが考えられます。また、大学入試センター試験の各教科・科目の平均点が全国的な上昇幅に迫りつつ、国公立大学の個別試験での挽回を目指していたものの、東日本大震災の影響下、センター試験の結果を重視する合否判定となってしまうことが考えられます。

さて、平成24年度入試から、センター試験の地理歴史・公民の受験方法が、変わります。

が、こうした変更に対応できる適切な受験科目を早期に決定し、自己の進路目標を実現できる学力向上を図れるよう、全教職員で指導していきたいと考えています。

今後も、同窓会の皆さんの期待に応えられるよう、進路指導をしていきたいと考えておりますので、どうぞご支援のほどよろしくお願いいたします。

進路先状況

	()内は前年度
国公立大学	29 (48)
私立大学	159 (161)
短大	1 (2)
大学校・留学	3 (0)
専門学校	9 (4)
就職	1 (1)
留学	0 (0)
進学努力継続	24 (23)
合計	226 (239)
進路決定率	89.4 (90.4)
大学進学決定率	88.7 (90.2)

国公立大学

秋田大学	1
山形大学	3
筑波大学	3
群馬大学	15
宇都宮大学	1
千葉大学	1
山梨大学	1
高崎経済大学	2
前橋工科大学	2
群馬健康科学大学	1
横浜市立大学	1
合計	31名

私立大学

青山学院大学	4
明治大学	4
中央大学	6
法政大学	1
東京理科大学	1
芝浦工業大学	6
日本大学	22
東洋大学	19
駒澤大学	5
明治学院大学	3
香林大学	6
早稲田大学	1
同志社大学	1
等	
合計	334名

今年の館高同窓会(総親睦会)は11月12日(土)

～誘い合ってお出かけください～

300名以上参加する大同窓会になって今年で13回目になります。同級生同士が旧交を温めるもよし、先輩後輩が励まし合うもよし、元気をもらって頑張ろうもよし、誘い合って集いましょう。好評だった「同級生は同一席で」「総会の超スリム化」「同窓生はみんな平等」の精神などは継承して開催します。

代表幹事 昭和53年卒業生たち



↑前年の総会で「来年もご参加下さい」と呼びかけた今年の代表幹事の皆さん

日時：平成23年11月12日(土) 午後5時

会場：ジョイハウス (TEL0276-73-4669)

◎参加券は総会幹事(下記)、本部役員、支部長さんからお求めください。

(参加券は5,000円、事務局にもあります。)

※4時30分から吹奏楽部の生徒による校歌等の演奏がありますので、お早めにお出かけください。

平成23年 総会幹事

48年卒	47年卒	46年卒	45年卒	44年卒	43年卒	42年卒	41年卒	40年卒	39年卒	38年卒	37年卒	36年卒	35年卒	34年卒	33年卒	32年卒	31年卒	30年卒	29年卒
大沢 孝	山岸 賢彦	早川 元久	津布久清高	金子 重雄	野村 博久	渡藤 和昭	伊藤 良三	小宮 隆雄	白井 佳良	増田 秀雄	菅内 敦夫	大塚 幸雄	山田 申	権田十四雄	岡野 上	川生 宏	山口 勝巳	新井 耕一	
原 康浩	井出 康弘	久保田進也	渡沢 悦登	日比野正孝	藤原 重幸	船塚 好美	嶋山 哲也		高橋 敬	和田 千明	小林 完夫	小川 完夫	藤田 勝	橋本 博	石井 昌雄	青藤 一美	藤原 保明	日野 次雄	
古水 龍雄	金子 博	黒沢 信幸	中島 清	直江 勇	早川 紀正	鎌田 明			初谷 吉敏	小林 廣吉	嶋山 善昭	嶋山 善昭	長谷川正博	手島 和雄				嶋山 芳弘	

49年卒	50年卒	51年卒	52年卒	53年卒	54年卒	55年卒	56年卒	57年卒	58年卒	59年卒
松浦 勉	中里 和典	岩沢 敬祐	小島 克己	野村 達之	藤井 雅明	杉田 光章	金子 政重	和泉 興	岩澤 勝也	松浦 勉
岩井 康幸	石崎 治	大川 善嗣	江原 洋正	本沢 典	岡部 好市	井上 浩明	亀田 和美	藤野 善雄	込谷 元雄	岩井 康幸
	初沢 智幸	金子 繁	中村 智宣	藤原 隆	田中 幸雄	野木村 崇	木村 秀政	松本 新一		初沢 智幸

事務局より

●総会幹事をいづれ推薦ください。上の総会幹事の欄で、空欄のある学年は補充する方をご推薦いただければ幸いです。よろしくお願いたします。

●次回の同窓会費を送付希望の方は、会費として千円を、郵送封筒でお送り下さい。

□座番号005200-0725333

□座名 群馬県立館林高等学校同窓会

●今年度の事務局員は、和泉、小林、本島、嶋山、柱木です。

編集後記

この度の東日本大震災で被災された皆様にお見舞い申し上げます。一日も早い復興をお祈りいたします。

原稿募集



皆さんが楽しんでやっていることを、ぜひご紹介ください。(特にジャンルは問いません。その面白さ、醍醐味、ご苦労、奮闘記などを)

また、そのような達人(同窓)を知ってましたら事務局へご一報ください。

- ・原稿は、タイトル、卒年、氏名、本文を清形な用紙に書いて送ってください。
- ・本文の字数は、写真や図表ありの場合は400字以内、なしの場合は800字以内
- ・送付先は同窓会事務局へ
- ・締め切りは24年4月末日

さて、今号一課の特集記事は創立九十周年記念式典とすることになりました。式典が十月二十二日実行されるため、その後発行することとし、発行日が従前の九月一日から十一月一日になりましたこと、ご了承ください。

今号より始まった「たのしみ」欄へは寄稿がなかったため、今回は「会報発行のためのアンケート」でご推薦いただいた方に原稿執筆をお願いしました。次号には揃ってご投稿ください。

この度サポーター編集委員のメンバーチェンジがおこなわれました。次号より新しい発想・発展が期待されます。お世話になりました。(山田、飯島)

編集委員(山田、飯島、前山、山岸、渡藤、鈴木、藤倉、廣部、和泉、柱木)

発行 群馬県立館林高等学校同窓会
〒324-0001 群馬県館林市西町二三四一
TEL0276(77)43007
FAX0276(77)43110